

翔く

日構専卒業生 訪問



青柳 民朗氏
青柳製作所(横浜市)
代表取締役社長

「関連の業界に準れば、職能が社会問題になるなど、土木に役立つ溶接・非破壊検査に関する技術・技能、非破壊検査の資格を能く、短期間で一通り身につけることができない」と高い就職率を誇る日構専の先生や同級生とのつながりも将来の宝になると思われ、青柳社長は大学卒業後、電子(半導体)関係の企業に約6年在籍し、その後、電子系とはいえず、同じ工業系とはいえず、建築と電子ではまったく異なる。転職に当たり、建築を含め鉄骨全般につ

学生時代の人脈は「宝」 集中できる環境も特徴

「鉄骨や建築業界に関する基礎知識がなかった自分にとって、必要な知識や技術・技能を学ぶこ

とができた。また、就職後資格を取るのには難しいが、勉強に集中できる環境のよさも日構専の特徴と言える」

在学当時、同期生は約30人を数えた。「自分と同じフリップ兄弟と同じ機会を並べ、同じ目標を持って勉強した。資格を一緒に取得しようと共通の目的を抱き、勉強を深めることができた」。青柳社長は「全国から集った学生とつながりを持つる人間的なネットワークも貴重」と指摘する。

「実際の仕事で直面する問題点を話し合えるネットワークを、在学中に築くことができる。今でも年に一度、機会をみつけて会う友人がいる。学校に顔を出せば、お世話になった先生に様々な相談に乗ってもらえる。卒業後も貴重な人間

関係に加え、これまで数人は、当社に就職している卒業生の紹介も含め、日構専とは深いつながりがある」

近年の学生減少については「企業側に余裕がない中、卒業生は紹介も含め、日構専とは深いつながりがある」

日本溶接構造専門学校(横浜市川崎区、奥村誠)は日本で唯一の溶接・非破壊検査の専門学校として、「溶接検査技術科」、「設備・構造安全工学科」、「鉄骨生産工学科」の学科編成で「ものづくりの学び舎」に相応しい教育を通じ、これまで多くの技術者候補生を輩出している。同校を巣立ち各異で活躍する卒業生をシリーズで紹介していく。



23年度入学式

新入生7人が希望胸に 日構専 入学式

日本溶接構造専門学校(川崎市川崎区、奥村誠)は4月4日、大講堂で平成33年度入学式を行い、7人の新入生が希望を胸に新生活へ第一歩を踏み出した。

君は、東日本大震災が発生した最初の年に学生生活が始まることに触れ、「本校で培った知識、技術がいずれ再生日本の一助となるよう精進する」と宣誓。奥村校長は「早く学生生活に慣れ、目標に向かって進んでほしい」と挨拶した。

日構専の経営母体である日本溶接技術センターの入江宏定会長は、「インフラ構築に欠かせない重要な基礎技術となる溶接・非破壊検査を学ぶ年間、マンツーマン教育でしっかりと身に付け、将来は今回の災害から日本人が学んだ新しい安全基準の下で活躍してほしい」と述べるとともに、基礎から実践まで学ぶことを念頭に置き、自発的な学習に期待を寄せた。

来賓からは「資格の取得に努め、信頼性の高い構造物をつくらせてほしい」と(日本溶接協会・長谷川博専務理事)、「溶接・非破壊検査技術を通じて社会の安全・安心を支える活躍に期待する」と(日本非破壊検査協会・横野孝和会長)、「非破壊検査業界へよきこそ、就職先を応援する」と(日本建設業協会・安井正樹)の挨拶があった。

入学式では、新入生7人が希望を胸に新生活へ第一歩を踏み出した。

卒業生は、日構専に入ってから構造的にあまり進化していない。さらに利点をアピールすると同時に新技術の研究開発を進めることで、鉄骨造の優位性がさらに広がり採用も増えるだろう。

▽設備・構造安全工学科・福士雄介(18・神奈川県)▽溶接検査技術科・川島大輔(18・同)▽物産科(20・同)奥村誠(22・愛媛県)安井正樹(24・愛知県)

てほしい」(CIW検査業協会・池田一彦氏)などの挨拶が寄せられた。恒例の出席者による自己紹介では新入生が「溶接が好き」「溶接を学びたい」とすると、教授・講師陣は「こんなうれしい言葉はない。がんばってほしい」などとエールを送った。入学生の氏名は次の通り(敬称略)。カッコ内は年齢・出身地)▽鉄骨生産工学科・高木恭亮(18・長野県)玉越正樹(22・兵庫県)